


**立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金  
大学院生研究 2010年度研究成果報告書**

研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	コミュニティ福祉学研究科・コミュニティ福祉学専攻・2	阿部 吉朗	
指導教員	所属・職名	氏名	
	コミュニティ福祉学研究科	橋本 正明	印
研究課題	特別養護老人ホームにおける介護人材の育成に関する研究	個人・共同の別	個人 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 共同 2名

**研究の概要** (200～300字で記入)

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入)

[ 特別養護老人ホーム ] [ 新任介護職 ] [ 育成 ]

高齢者福祉分野における現在の特別養護老人ホームにおける運営上の課題の一つが介護人材の育成と考えられる。そこで、どのような教育・研修が介護人材の育成上大切であることを明らかにするために、現在、県内の施設において実施されている育成に向けた取り組みの実態を調査し、今後の埼玉県内の特別養護老人ホームの運営に役立てたいと考える。そのために、①埼玉県内の特別養護老人ホーム268ヵ所の全数調査「新任の介護職員の研修に関する施設実態調査」と②各施設の採用後2～3年目の正職介護職員2名を対象に「新任介護職員研修に関する介護職員実態調査」を行う。①に関しては、施設の基本情報、介護職員の状況、施設で実施している研修内容、研修の課題と要望について調査します。②介護職員の基本情報、新任介護職員研修による自己評価・意欲の変化について調査します。

**研究成果の概要**

研究結果は、チューター制度を受けることによって、仕事に対する意識が凝縮する傾向がみられ、職場の人間関係に対しては、良好な関係の形成に影響しているということがわかった。このような効果があることで職場において働きやすくなるだけでなく、チームケアをしていく上でも重要な共通認識や情報の共有に繋がり介護の質も高まると考えられる結果となった。また、仕事の充実感に対してもチューター制度を受けることによって充実度が高まるということであり、チューター制度の介護職員に対する研修体系としての有効性を示すことが出来たと考える。

しかし、課題としてチューターが指導方法をしっかりと学ぶ機会(時間)が仕事をしている中でなかなかもてないことやスーパーバイザーの育成が間に合わないことなどが挙げられ、今後の研修体系を考える上で重要なポイントも浮かび上がった。

※ この(様式)に記入の、経過・成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

④その他(平成22年度 埼玉県と県内大学との連携による政策研究:介護施設における人材の育成・確保に関する研究の中で資料として一部使われました。)